

統計データからみた那珂川市の現状

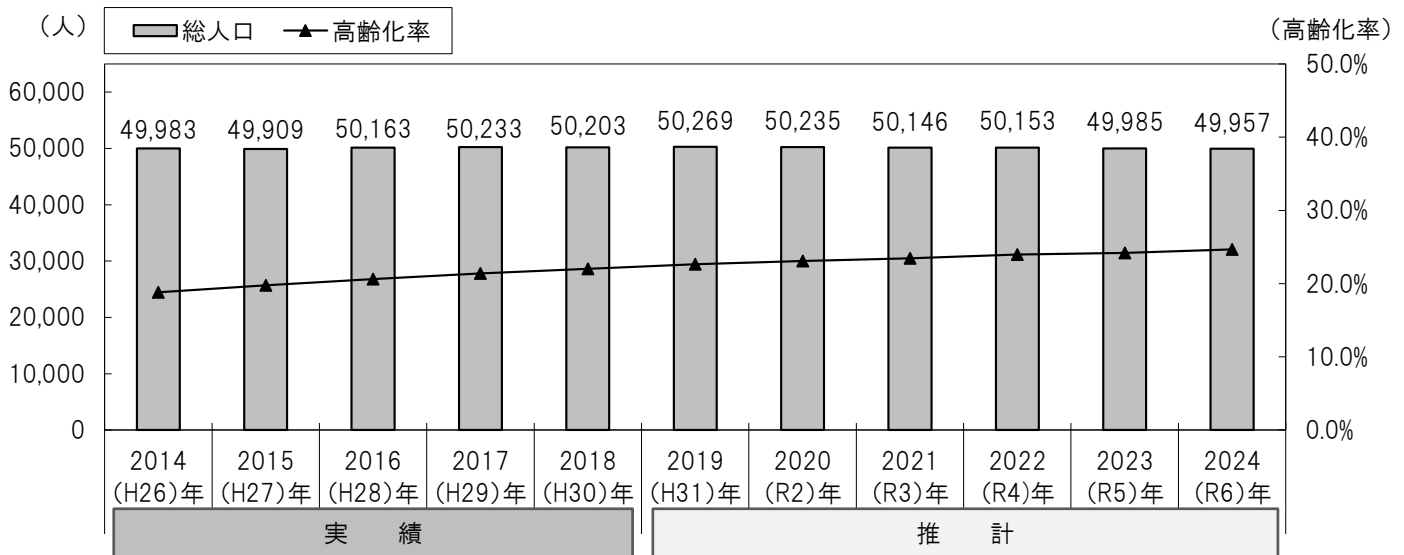
1. 人口の状況

(1) 人口の推移

本市の総人口は年度によって増減が見られますが、2016年に5万人を超えて以降、しばらく横ばい傾向が続き、2023年度からは5万人を下回ると予想されます。

年齢を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少していますが、老年人口（65歳以上）は増加傾向にあります。総人口が横ばい或いは減少傾向にある中で、老年人口は増加しているため、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は上昇を続け、2024年には24.7%に達する見込みです。

【人口の推移（実績と将来推計）】



(単位：人)

	実績					推計					
	2014 (H26)年	2015 (H27)年	2016 (H28)年	2017 (H29)年	2018 (H30)年	2019 (H31)年	2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年
0-14歳	8,669	8,588	8,582	8,487	8,399	8,319	8,258	8,182	8,074	7,924	7,767
15-64歳	31,905	31,451	31,243	31,005	30,757	30,562	30,380	30,203	30,055	29,972	29,861
65歳以上	9,409	9,870	10,338	10,741	11,047	11,388	11,597	11,761	12,024	12,089	12,329
総人口	49,983	49,909	50,163	50,233	50,203	50,269	50,235	50,146	50,153	49,985	49,957
高齢化率	18.8%	19.8%	20.6%	21.4%	22.0%	22.7%	23.1%	23.5%	24.0%	24.2%	24.7%

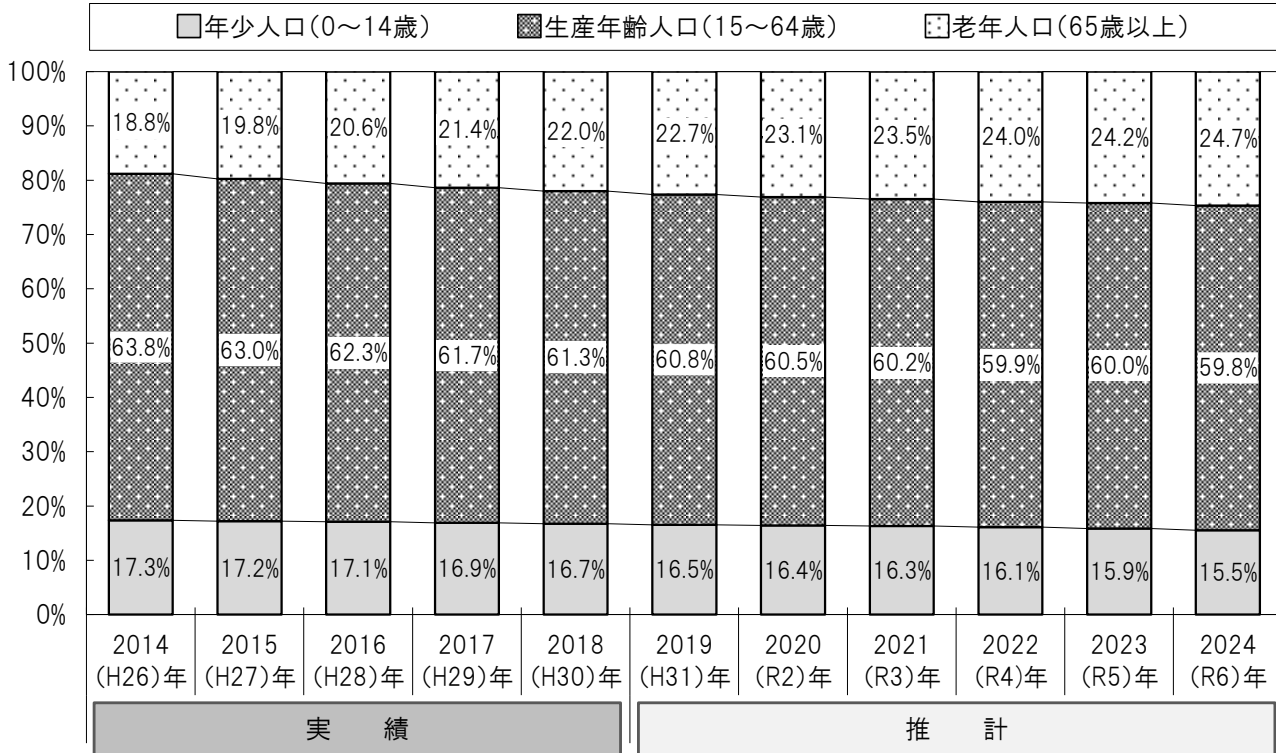
計画期間(2020～2024)

資料 2014～2018年：住民基本台帳*（4月1日時点）、2019～2024年：コーホート変化率法*による推計値

*「住民基本台帳」とは、住民票を世帯ごとに編成した公的な名簿（外国人を除く）。毎月ないし年数回の時点における人口データとなるため、直近のデータが使用可能で、かつ推計時点として望ましい4月1日時点の実績から推計を行うことができる。

*「コーホート変化率法」とは、各コーホート（同じ年に生まれた人々の集団）について、過去における実績人口の動勢から変化率を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。国で実施する推計人口をはじめ、比較的近い将来の人口予測であり、特殊な人口変動がない場合によく用いられる。

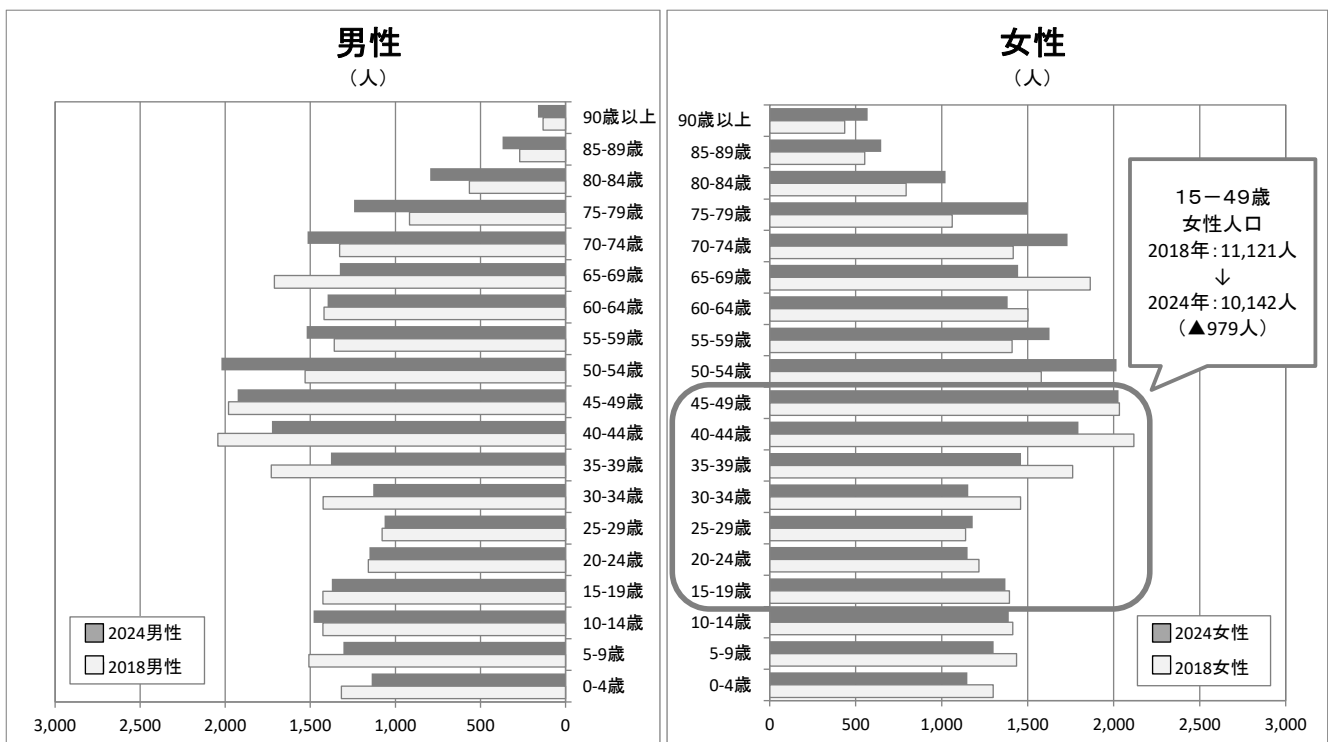
【年齢3区分別人口の推移（実績と将来推計）】



資料 2014~2018年：住民基本台帳（4月1日時点）、2019~2024年：コーホート変化率法による推計値

2018年（実績）と2024年（推計値）の性別・5歳階級別の人口による人口ピラミッドをみると、合計特殊出生率*の算定対象である15~49歳の女性人口は2018年現在から計画の最終年度である2024年の6年間で979人減少するものと予測されます。なかでも30歳代~40歳代前半の女性の減少が大きくなっています。

【人口ピラミッド（2018年と2024年の比較）】



資料 2018年：住民基本台帳（4月1日時点）、2024年：コーホート変化率法による推計値

*「合計特殊出生率」とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の年間合計で計算される。この値は、1人の女性が一生の間に生む子どもの数の目安とされている。

(2) 出生の状況

本市の合計特殊出生率は、平成 15～19 年で 1.66、平成 20～24 年で 1.71 と高く、全国・福岡県と比較しても高い水準となっていますが、人口を維持するために必要な水準*の 2.06 を下回っている状況です。

母親の年齢階級別に年間の出生数の状況をみると、概ね 500 人前後で推移しており、母親の年齢階級別にみると、20 代後半～30 代前半の出生数が多くなっています。

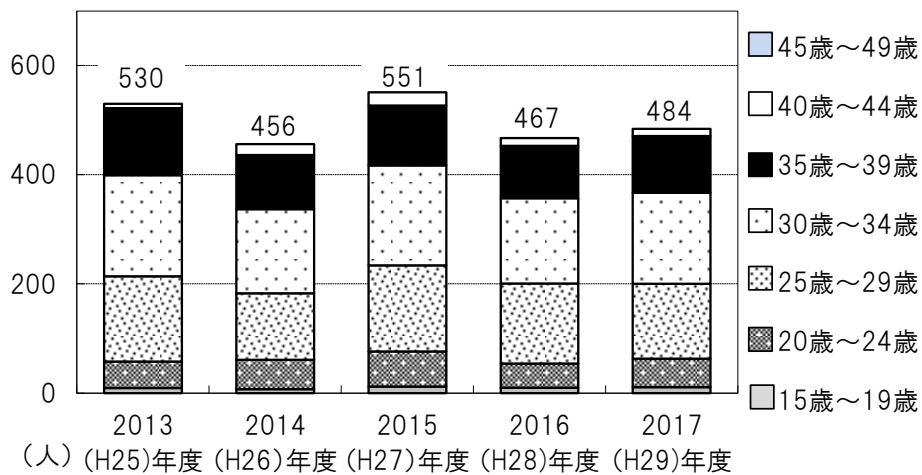
出生率（人口千人あたりの出生数）をみると、国・福岡県よりも高い水準で推移しています。

【合計特殊出生率】

	全国	福岡県	那珂川市
平成 15～19 年	1.31	1.31	1.66
平成 20～24 年	1.38	1.43	1.71

資料 人口動態統計保健所・市区町村別統計（厚生労働省）

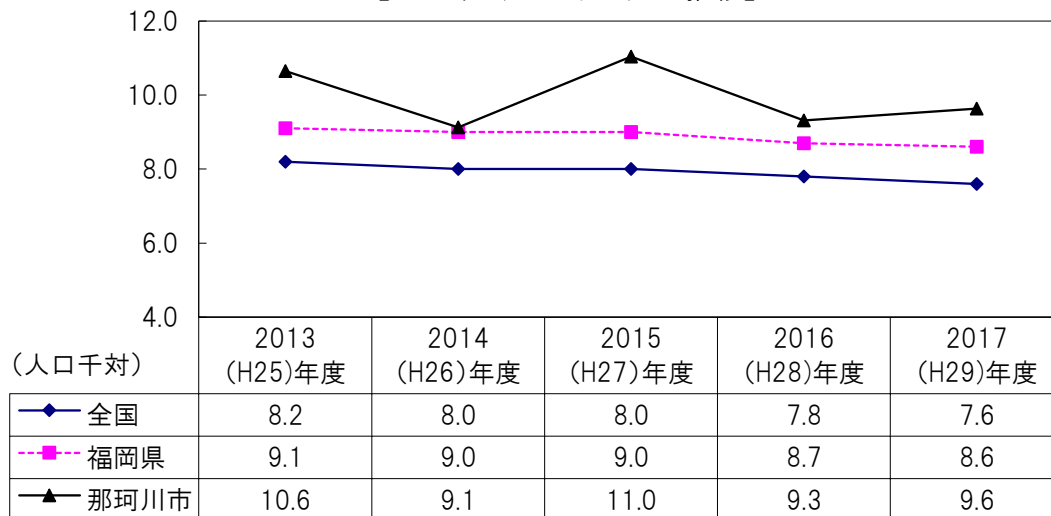
【母親の年齢階級別 出生数の推移】



(人) (H25)年度 (H26)年度 (H27)年度 (H28)年度 (H29)年度

資料 那珂川市 (4月1日～3月31日の母親の年齢階級別 出生数計)

【出生率（人口千対）の推移】



資料 国・県（人口動態統計）、那珂川市（人口動態統計及び住民基本台帳から算出）

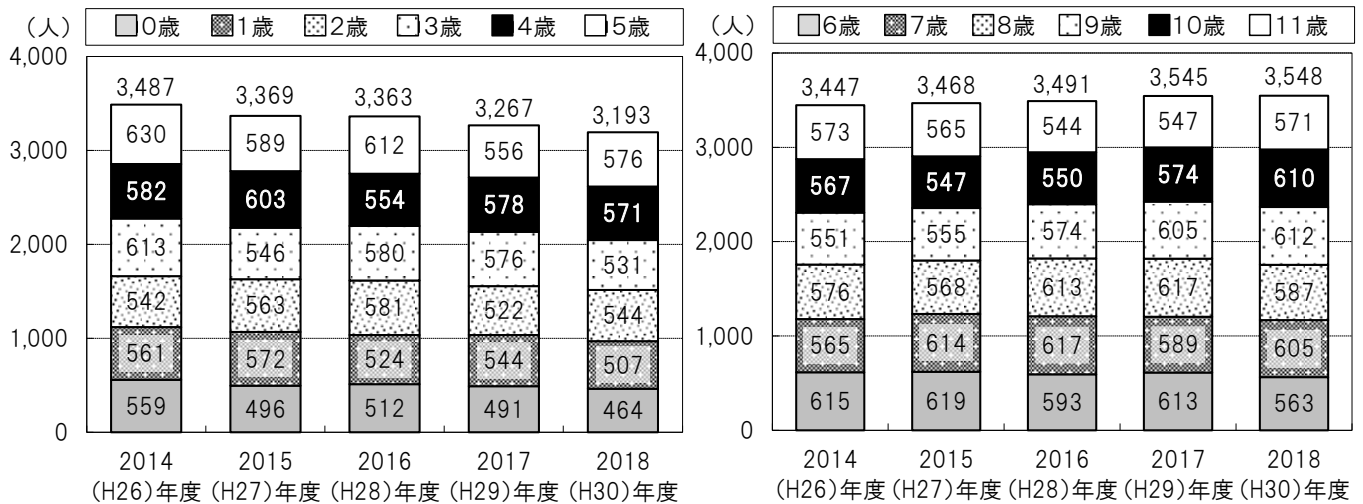
* 「人口を維持するために必要な水準」とは、人口置き換え水準を指し、人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための大きさを表す指標。人口置き換え水準に見合う合計特殊出生率は、女性の死亡率等によって変動するが、平成 29 年の値は 2.06（国立社会保障・人口問題研究所）。

(3) 児童人口の推移

小学生以下（0～11歳）の児童の年齢別人口の推移をみると、就学前児童（0～5歳）については2014年の3,487人から2018年には3,193人と減少していますが、小学生児童（6～11歳）については2014年の3,447人から2018年の3,548人と児童人口は増加しています。

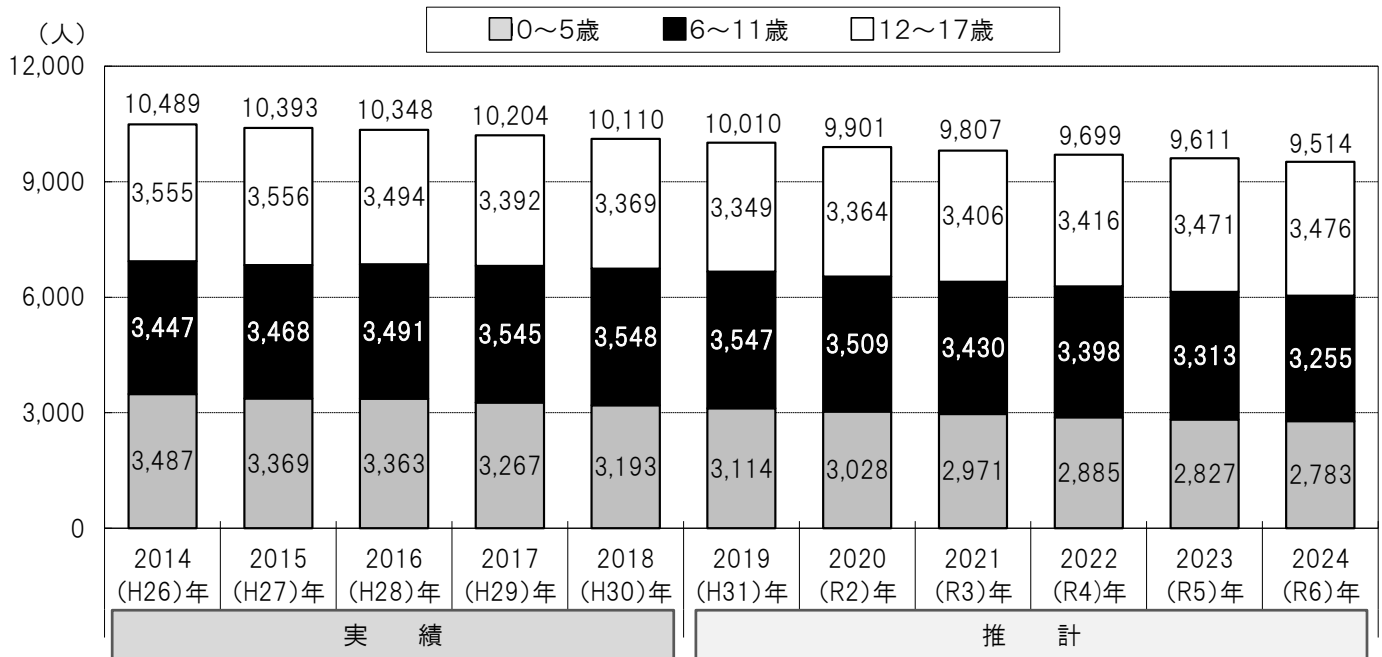
小学生児童は増加していますが、17歳以下の児童人口全体でみると減少傾向にあるため、児童人口の推計をみると、2018年の10,110人から計画の最終年度である2024年までには9,514人まで減少する見込みです。

【児童人口（小学生以下）の推移】



資料 2014～2018年：住民基本台帳（4月1日時点）

【児童人口の推移（実績と将来推計）】



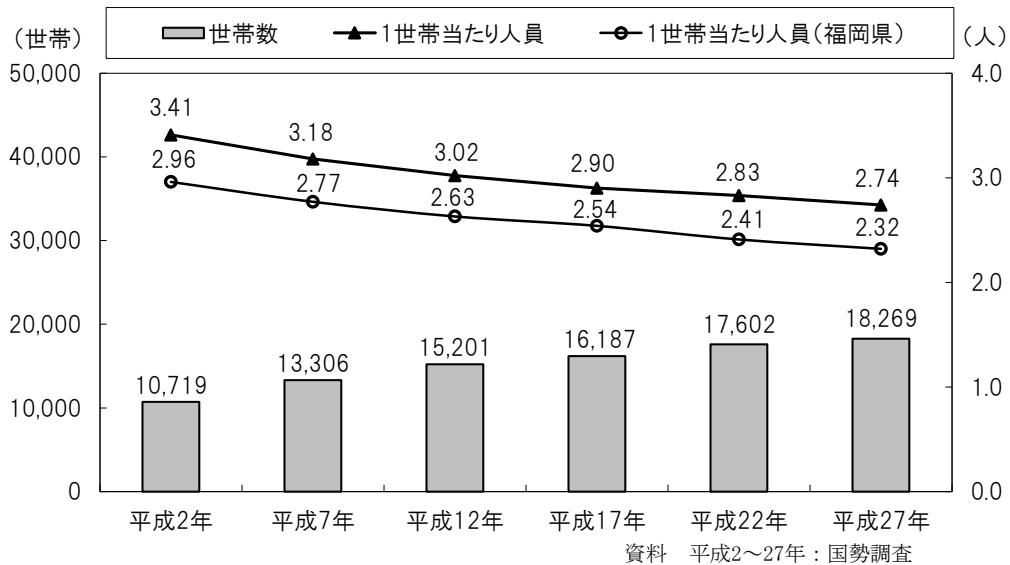
資料 2014～2018年：住民基本台帳（4月1日時点）、2019～2024年：コーホート変化率法による推計値

(4) 世帯の動向

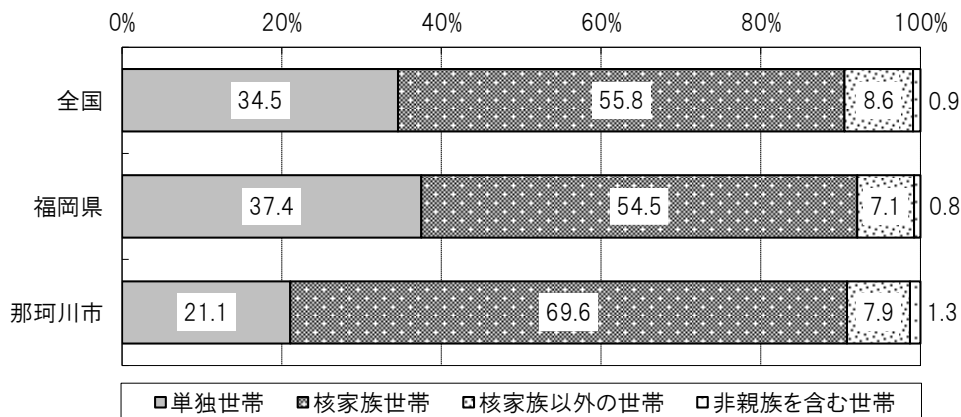
本市の世帯数は増加を続けており、平成27年で18,269世帯となっています。1世帯当たり人員は福岡県と比較すると多くなっていますが、平成2年の3.41人から平成27年の2.74人と世帯規模は縮小しています。

世帯構成（平成27年）をみると、核家族世帯が最も多く約7割を占め、単独世帯は2割となっています。全国・福岡県と比較すると、本市においては単独世帯よりも夫婦と子どもからなる核家族世帯の占める割合が高いことが分かります。

【世帯数・世帯人員の推移】



【世帯構成（平成27年）】



	世帯数	単独世帯数	親族のみの世帯					核家族以外の世帯	非親族を含む世帯
			核家族世帯						
			夫婦のみ	夫婦と子ども	男親と子ども	女親と子ども			
全国	100.0%	34.5%	20.1%	26.8%	1.3%	7.6%	8.6%	0.9%	
福岡県	100.0%	37.4%	19.1%	25.8%	1.2%	8.3%	7.1%	0.8%	
那珂川市	100.0%	21.1%	20.8%	38.7%	1.5%	8.7%	7.9%	1.3%	

資料 平成27年：国勢調査

2. 就業の状況

(1) 男女別就業率

男女別の就業率をみると、男性で 67.3%、女性で 46.9%となっており、いずれも福岡県よりも高い就業率となっています。

【男女別就業率（平成 27 年）】

(単位：人)

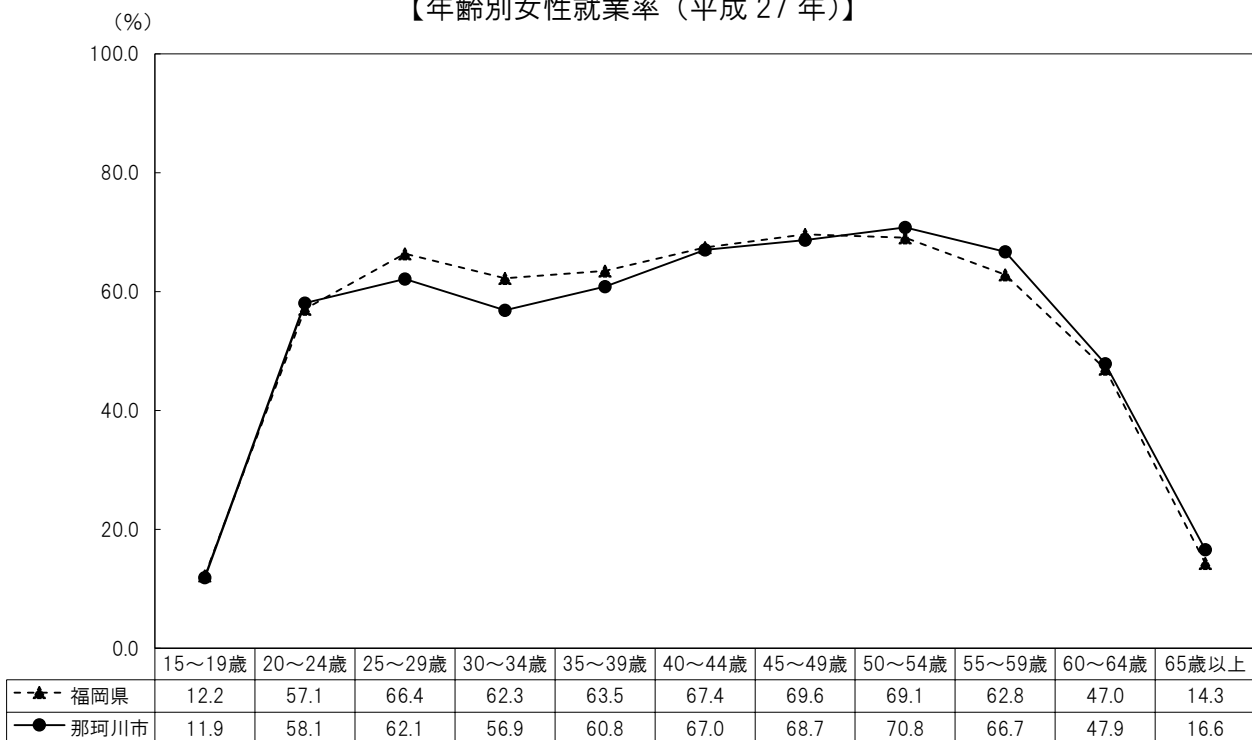
	男 性			女 性		
	総数	就業者数	就業率	総数	就業者数	就業率
福岡県	2,029,235	1,223,148	60.3%	2,333,384	1,030,947	44.2%
那珂川市	19,633	13,219	67.3%	21,581	10,130	46.9%

資料 平成27年：国勢調査

(2) 女性の就業率

子育てと仕事との両立に関連して、女性の就業率（15 歳以上人口に占める就業者数*）をみてみると、30～34 歳の就業率に落ち込みがみられます。福岡県と比較しても、本市においては、結婚・出産期に当たる年代に一旦退職し、育児が落ち着いた時期に再び復職する女性が多いと考えられます。

【年齢別女性就業率（平成 27 年）】



資料 平成27年：国勢調査

*「就業者数」とは、賃金、給料、諸手当、内職収入などの収入を伴う仕事を1時間以上した者。なお、家族従業者は、無給であっても仕事をしたとする。また、仕事をもちながら、調査週間に仕事をしなかった休業中の者を含む。

3. 主な教育・保育施設等の状況

(1) 認可保育所の状況

市内には平成 30 年度で 11 園の認可保育所があります。保育ニーズの高まりに伴い、定員も 2013 年度の 825 人から 2018 年度の 1,208 人まで、383 人の定員増をしています。

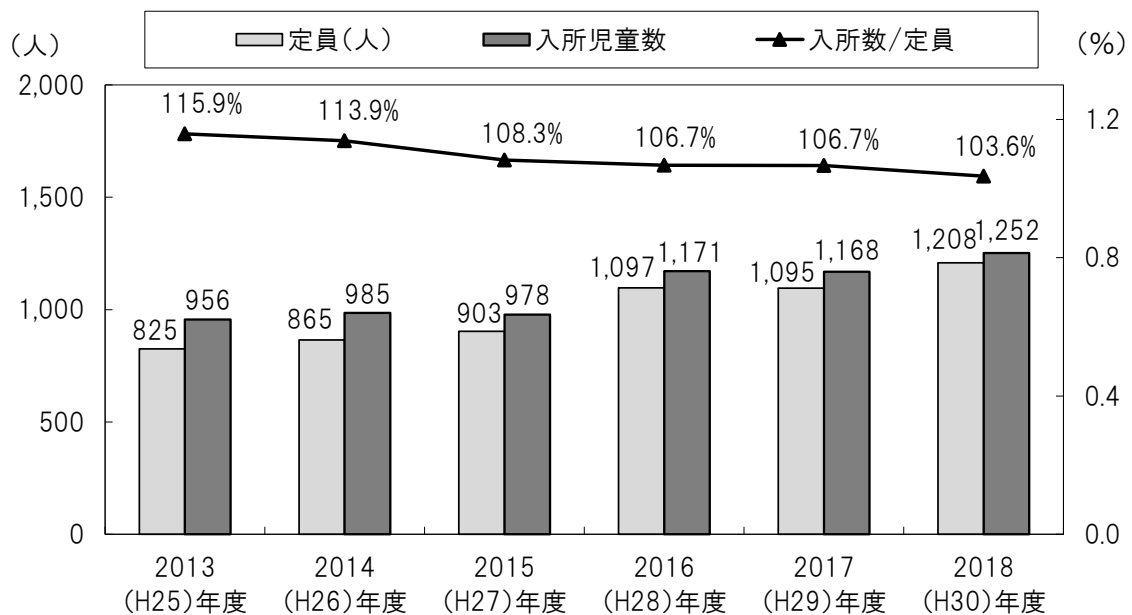
2013 年度から 2017 年度にかけて毎年定員を超える児童の受け入れを行っていますが、保育施設及び定員の増加により、大幅な定員超過にならないよう受け入れ体制の確保に努めています。

【認可保育所の利用状況】

		2013 (H25) 年度	2014 (H26) 年度	2015 (H27) 年度	2016 (H28) 年度	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度
保育所数 (か所)		6	6	7	8	8	11
定員 (人)		825	865	903	1,097	1,095	1,208
入所児童 数 (人)	0 歳	105	109	91	128	121	139
	1 歳	130	144	145	183	179	190
	2 歳	156	149	167	207	194	217
	3 歳	172	181	181	219	227	229
	4 歳	205	192	198	218	226	244
	5 歳	188	210	196	216	221	233
	計	956	985	978	1,171	1,168	1,252
	0～2 歳	391	402	403	518	494	546
	3～5 歳	565	583	575	653	674	706
入所数/定員		115.9%	113.9%	108.3%	106.7%	106.7%	103.6%

資料 2013～2018年：那珂川市（3月31日時点）

【入所児童数の推移】



【認可保育所別の利用状況】

保育所名	定員	入所児童数	入所数/定員
中央保育所	190	188	98.9%
青葉保育園	165	184	111.5%
青葉保育園（分園）	30	21	70.0%
那珂の森保育園	120	127	105.8%
青葉桐の花保育園	180	188	104.4%
なかがわ保育園	180	218	121.1%
那珂川道善コスモス保育園	200	202	101.0%
地方裁量型認定こども園バディスポーツ幼稚園	30	15	50.0%
幼保連携型認定こども園那珂川第一幼稚園	75	71	94.7%
第二なかがわ保育園（小規模保育施設）	19	19	100.0%
那珂川片縄コスモス保育園（小規模保育施設）	19	19	100.0%
合計	1,208	1,252	103.6%

資料 2019（H31）年：那珂川市（3月31日時点）

(2) 市内における待機児童の状況

就労を希望する母親の増加などにより、入所希望児童も年々増加しています。定員増及び定員を上回る受け入れを行うことで、待機児童は大きく減少していますが、これを上回る入所希望により現在も待機児童の解消に至っていない状況です。

【待機児童数の推移】

	2015（H27）年		2016（H28）年		2017（H29）年		2018（H30）年	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
待機児童数（人）	87	123	0	97	89	132	29	23

資料 保育所等利用待機児童数調査に基づく児童数
 ※国の待機児童数調査については、4月1日時点、
 10月1日時点の待機児童数を計数することとしている。

(3) 幼稚園の状況

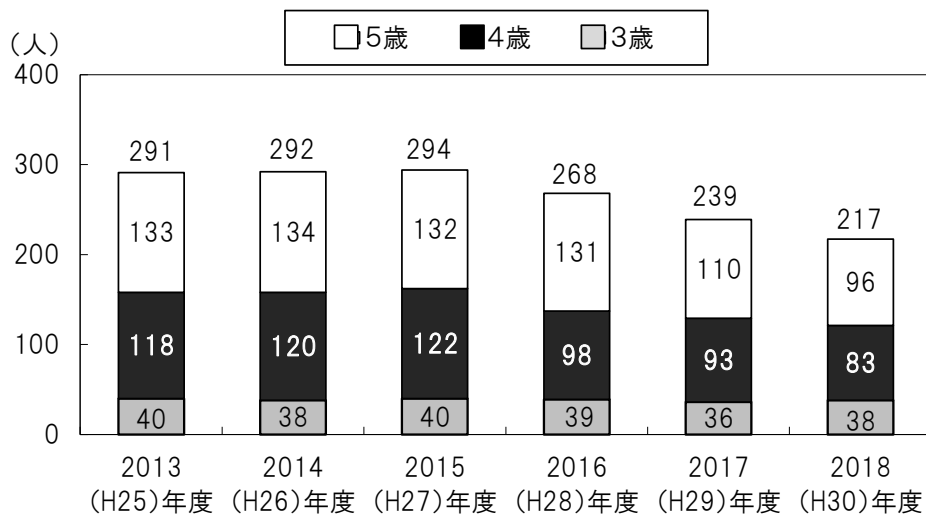
市内には3園の幼稚園があります。4歳児と5歳児の園児数が近年減少傾向にあり、平成30年度で217人となっています。定員に対する入所児童数も市内3園合計で47.2%と定員を下回っています。

【幼稚園の利用状況】

		2013 (H25) 年度	2014 (H26) 年度	2015 (H27) 年度	2016 (H28) 年度	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度
幼稚園数 (か所)		3	3	3	3	3	3
園児数 (人)	3歳	40	38	40	39	36	38
	4歳	118	120	122	98	93	83
	5歳	133	134	132	131	110	96
	計	291	292	294	268	239	217

資料 2013～2018年：那珂川市 (3月31日時点)

【幼稚園の園児数の推移】



【幼稚園別の利用状況】

幼稚園名	定員	入所児童数	入所数/定員
岩戸幼稚園	140	38	27.1%
南畑幼稚園	70	12	17.1%
岩戸北幼稚園	250	167	66.8%
合計	460	217	47.2%

資料 2019 (H31) 年：那珂川市 (3月31日時点)

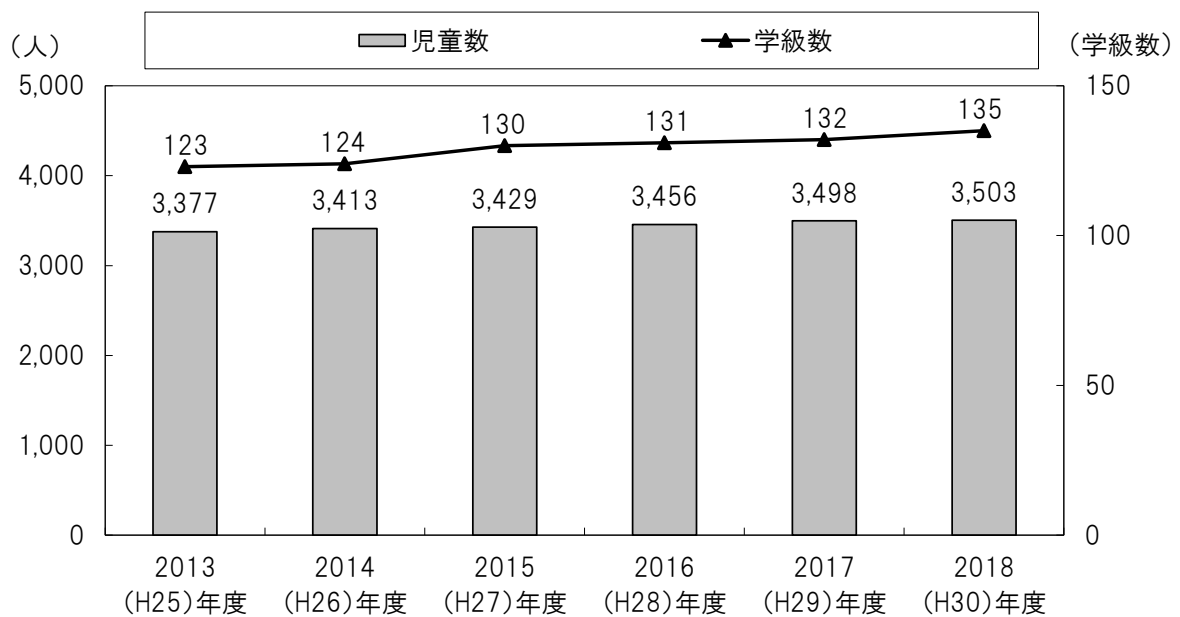
(4) 小学校の状況

市内には7か所の小学校があり、児童数・学級数ともに増加傾向にあります。2019年5月時点の児童数は3,503人となっており、学校別にみると、安徳北小学校(780人)、岩戸北小学校(759人)、安徳南小学校(695人)の順に児童数が多くなっています。

【小学校の児童数の推移】

	2013 (H25) 年度	2014 (H26) 年度	2015 (H27) 年度	2016 (H28) 年度	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度
児童数(人)	3,377	3,413	3,429	3,456	3,498	3,503
学級数(学級)	123	124	130	131	132	135

資料 2015～2018年：那珂川市(5月1日時点)



【学校別の児童数】

学校名	児童数	学級数	うち
			特別支援学級
南畑小学校	74	8	2
岩戸小学校	223	11	4
岩戸北小学校	759	27	5
片縄小学校	555	23	5
安徳小学校	403	15	3
安徳北小学校	780	29	6
安徳南小学校	695	24	4
計	3,489	137	29

資料 2019 (H31) 年：那珂川市(5月1日時点)

(5) 学童保育の状況

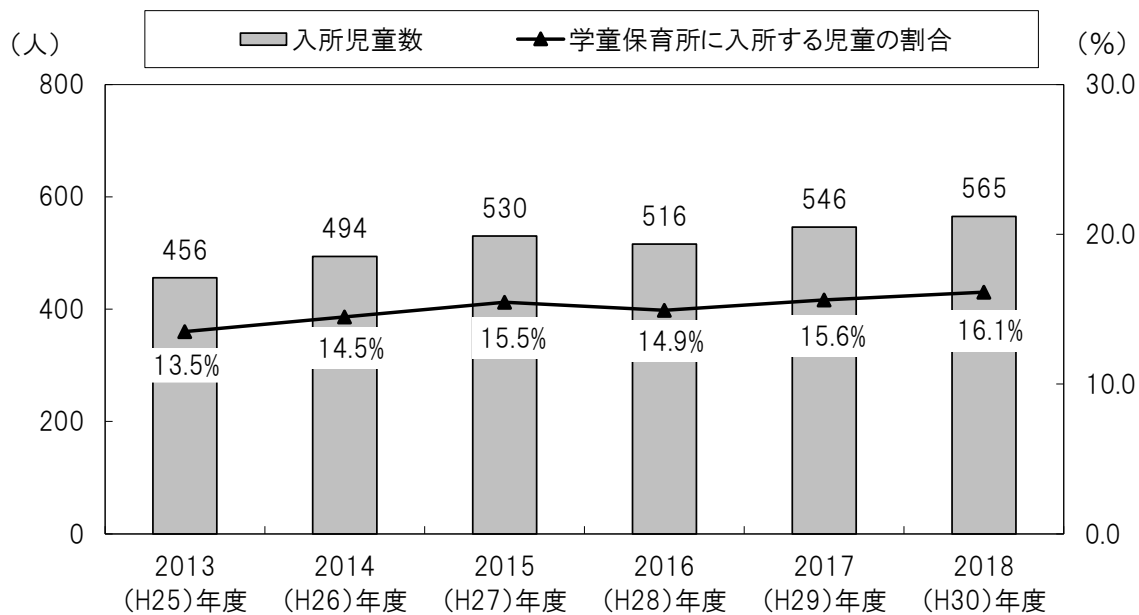
市内7箇所の小学校それぞれに学童保育所を設置しています。学童保育の利用児童数は増加傾向にあり、2018年度には18か所、565人の利用となっています。また、児童数に占める学童保育入所児童の割合も2018年度で16.1%となっています。

学童保育所別にみると、安徳北学童保育所で定員を超える利用となっています。

【学童保育入所児童数の推移】

		2013 (H25) 年度	2014 (H26) 年度	2015 (H27) 年度	2016 (H28) 年度	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度
学童数(か所)		11	11	11	11	17	18
児童数 (人)	低学年	411	443	470	470	488	502
	高学年	45	51	60	46	58	63
	計	456	494	530	516	546	565
入所数/児童数		13.5%	14.5%	15.5%	14.9%	15.6%	16.1%

資料 2015～2018年：那珂川市(5月1日時点)



【学童保育所別の入所児童数】

学校名	定員	入所児童数	入所数/定員
南畑学童保育所	40	16	40.0%
岩戸学童保育所	80	40	50.0%
岩戸北学童保育所	120	105	87.5%
片縄学童保育所	120	113	94.2%
安徳学童保育所	120	86	71.7%
安徳北学童保育所	120	137	114.2%
安徳南学童保育所	120	98	81.7%
計	720	595	82.6%

資料 2019 (H31) 年：那珂川市(5月1日時点)